

認定中心市街地活性化基本計画のフォローアップに関する報告

平成25年3月
北九州市小倉地区（福岡県）

平成24年度フォローアップ結果のポイント

計画期間；平成20年7月～平成26年3月（5年9月）

1. 概況

基本計画掲載事業103事業のうち、42事業が完了、56事業が実施中、5事業が未着手である。

公共事業では、平成24年8月に「北九州市漫画ミュージアム整備事業」が完了したほか、平成25年3月には「都市計画道路博労町線の整備」が完了した。また、平成24年9月には「快適に回遊できる歩行空間創出事業」により実施している小倉駅小倉城口の太陽光ルーフを一部供用開始するなど、概ね予定通り進捗している。

民間事業では、平成24年4月に「小倉駅北口商業ビル(ラフォーレ跡)再生事業」及び「魚町三丁目複合商業施設開発事業」がオープンしたほか、同年10月には「にぎわいの駅・小倉屋台村事業」がオープンするなど、多くの事業が完了した。

また、これらの大規模施設整備に加え、「中心市街地都市型ビジネス事業」により進めてきた取組により、リノベーション手法を用いた建物の再生が活発化し、小規模な施設が次々とオープンするなど、事業実施による効果が目に見えて現れてきているところである。

こうしたことから、4つの目標指標のうち、事業所従業者数が目標を達成する見込みであるほか、歩行者通行量では目標達成は難しいものの、増加傾向に転じている。他の2つの指標については、増加には至っていないものの、徐々に横ばい傾向に変化してきており、まちに賑わいが戻りつつある。

2. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回見通し	見通し
広域商業拠点の賑わいの向上	商店街エリアを中心とした歩行者通行量	146,958人/日 (H19年度)	177,000人/日 (H25年度)	159,065人/日 (H24年度)		
	既存の主要大規模商業施設の年間来店者数	48,695,683人/年 (H18年度)	52,000,000人/年 (H25年度)	46,052,870人/年 (H23年度)		
文化的で非日常的な都心の魅力向上	主要な歴史・文化・コンベンション施設の年間来場者数	約165万人/年 (H18年度)	197万人/年 (H25年度)	154.0万人/年 (H23年度)		
昼間人口の拡大による活力向上	事業所従業者数（民営）	64,612人 (H18年)	69,000人 (H25年)	72,031人 (H24年)		

注）取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。

取組の進捗状況は概ね予定通りだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

取組の進捗状況は予定通りではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。

取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

取組が実施されていないため、今回は評価対象外。

3. 目標達成見通しの理由

「商店街エリアを中心とした歩行者通行量」については、昨今の厳しい経済状況から、スケジュールが遅れている事業があるものの、平成22年12月の「小倉記念病院新築移転事業」に加え、平成24年4月の「小倉駅北口商業ビル(ラフォーレ跡)再生事業」、同年8月の「北九州市漫画ミュージアム整備事業」など、多くの集客施設が開設した効果により、小倉駅新幹線口(北口)の歩行者が大幅に増加している。また、小倉駅小倉城口(南口)においても、同年4月に「魚町三丁目複合商業施設新築事業」がオープンし、新たな賑わいの拠点が形成されたことに加え、同年9月には小倉城口のペDESTリアンデッキ上に整備を進めてきた太陽光ルーフが一部区間を除いて供用を開始し、雨に濡れない快適な歩行空間の創出を図ったことなどから、昨年度に引き続き増加している。

しかしながら、平成24年度内に開設した施設のうち、「小倉駅北口商業ビル(ラフォーレ跡)再生事業」については、年間200万人を超える来場者があり、小倉駅新幹線口(北口)の歩行者通行量の増加に大幅に寄与したものの、当初想定していた年間250万人には届いていないことや、平成25年度に完成する新たな集客施設がないことなどから、このままでは目標達成可能とは見込まれない。

「既存の主要大規模商業施設の年間来店者数」については、「商店街エリアを中心とした歩行者通行量」と同様の事業が目標達成に影響するが、当該指標に特に影響が大きい拠点開発等の事業が進んでいないことなどから、昨年度に引続き減少している。

当初、基本計画期間内に完成予定であった主要事業のうち、「チャチャタウン小倉2期開発事業」は、経済情勢の悪化により、平成21年9月に事業主体である西日本鉄道(株)より事業延期の発表があり、現在までに事業再開の目途は立っていない。また、「巨過第一地区市街地再開発事業」は、地権者の合意形成が難航していたエリアにおいて、市の河川事業と一体的に進めることで早期事業着手できるように、平成23年度末より関係機関における協議を開始した。平成24年10月からは地元住民を加えた勉強会を発足、これまで計9回開催し、再開発事業の基礎となるまちづくり構想の素案を作成するなど、官民一体となった事業推進を図っているものの、これら数値目標の達成に資する主要事業の計画期間内の完了は実質不可能な状態になっており、このままでは目標達成可能とは見込めない。

「主要な歴史・文化・コンベンション施設の年間来場者数」については、平成22年10月にリニューアルオープンを果たした「九州厚生年金会館リニューアルオープン事業」の効果はあったものの、依然として厳しい経済状況により、大規模コンベンション施設を利用した展示会等の開催数が伸び悩んでいることや、文化施設における企画展等の来場者数が想定より下回ったことから、全体としては僅かながら減少しており、このままでは目標達成可能とは見込めない。しかしながら、平成24年8月には「北九州市漫画ミュージアム」を開設し、概ね当初想定通りの来場があっていることや、10月に「B-1グランプリ in 北九州」を初めとする複数の大規模コンベンションを開催するなど、目標達成に向けた取り組みを積極的に進めてきた。また、平成25年度には本市の市制50周年に関連した様々なコンベンションやイベントを予定していることから、今後、増加が見込まれる。

「事業所従業者数」については、主要事業である「小倉駅南口東地区市街地再開発事業」など、遅滞している事業があるものの、数値増加が見込めない部分を補うために追加した「魚町3丁目複合商業施設開発事業」や「九州厚生年金会館リニューアルオープン事業」、「中心市街地都市型ビ

ジネス振興事業」などにより、多くの新規雇用が生まれたことから、昨年度に引続き増加しており、数値目標を達成している。このことから、基本計画当初に盛り込んだ主要事業が遅滞しているものの、今後も、引続き官民一体となった取組を継続することで、目標数値の達成は可能と考えている。

4．前回フォローアップと見通しが変わった場合の理由

「商店街エリアを中心とした歩行者通行量」については、「小倉記念病院新築移転事業」や「小倉駅北口商業ビル(ラフォーレ跡)再生事業」のように、既に効果を発現している主要事業はあるものの、「チャチャタウン小倉2期開発事業」、「巨過第一地区市街地再開発事業」など、目標達成に影響の大きい事業のうち、未着手または準備段階となっている事業があり、今後、速やかに着手できたとしても、計画期間内の事業完了は難しいため。

5．今後の対策

基本計画のこれまでの取り組みにより、ハード事業は一定程度の目途がたった。今後はこれまでに整備した新たな集客施設や都市基盤施設を活用し、来街者の回遊性向上を図るなど、ソフト事業に重点を移し、今後とも活性化に向けた取組を進める。

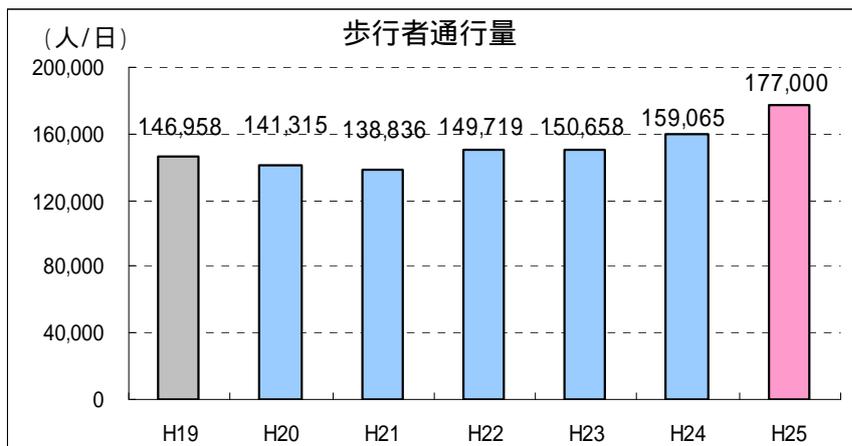
また、中心市街地活性化協議会を中心に、更なる事業間の調整や連携に加えて、事業推進のために強化したマネジメント体制を持続させる。

これにより、現在の取組を着実に進めていくとともに、遅れが生じている事業の調整・着手、地域の魅力をさらに高める効果的な新規事業の追加など、目標達成に向けた取組を着実に進めていく。

・目標毎のフォローアップ結果「広域商業拠点の賑わいの向上」

「商店街エリアを中心とした歩行者通行量」 目標設定の考え方基本計画 P70～P71 参照

1. 調査結果の推移



年	(人/日)
H19	146,958 (基準年値)
H20	141,315
H21	138,836
H22	149,719
H23	150,658
H24	159,065
H25	177,000 (目標値)

調査方法；実測数の平均

調査月；H20～H21：8月下旬～9月上旬

H22～H24：8月、10月、12月、2月の平均値

調査主体；北九州市

調査対象；商業集積エリア内の11ヶ所における歩行者通行量（9時～19時）+

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

・小倉記念病院新築移転事業（(財)平成紫川会）

事業完了時期	【済】平成22年度
事業概要	総合病院の整備 24診療科目 658床
事業効果又は進捗状況	平成22年12月に開院。病院利用者は約4,000人/日となっており、歩行者通行量の増加及び大規模商業施設の来店者数の増加に寄与。

・魚町銀天街ショッピングモール化事業（魚町一丁目商店街振興組合、魚町商店街振興組合）

事業完了時期	【実施中】平成21年度～
事業概要	2つの商店街をつなぐ国道上のアーケードの新設と既存アーケードの改修、商店街活性化に向けた一体的なソフト事業の実施。
事業効果又は進捗状況	平成22年3月にアーケードが完成し、商店街の回遊性向上に寄与。今後も引き続き、逸品屋フェアなどの商店街活性化のソフト事業を実施する。平成25年度にはアーケード改修箇所魚町三丁目を追加。

・小倉地区賑わい回復イベント事業（小倉中央商業連合会）

事業完了時期	【実施中】平成12年度～
事業概要	都心部の賑わいと消費拡大をテーマとした集客促進のイベントの実施
事業効果又は進捗状況	毎年、様々な工夫を凝らし、「大道芸フェスティバル(5月)」や「十日ゑびす(1月)」、「小倉食市食座(2月)」等を実施し、主要大規模商業施設の来店者数の向上にも寄与している。

・小倉都心賑わいづくり推進事業(紫川、勝山公園の魅力を生かした四季折々のイベント)(北九州市/実行委員会)

事業完了時期	【実施中】平成21年度～25年度
事業概要	紫川周辺の公共空間を活用したイベント等を開催
事業効果又は進捗状況	紫川や勝山公園を中心に、季節に応じた特色のあるイベントを開催し、平成20～24年度までの5ヵ年で、総イベント数45件、延べ来場者約800万人を集客するなど、賑わいの創出や回遊性の向上に寄与。

・魚町銀天街ICポイントカードシステム事業(魚町一丁目商店街振興組合、魚町商店街振興組合)

事業完了時期	【実施中】平成21年度～
事業概要	ICカードを用いたポイントカードの導入
事業効果又は進捗状況	平成22年4月よりポイントカード事業開始。 多様な事業主体と連携したICカード事業を実施するほか、カードシステムを活用したイベントなどを実施し、商店街の賑わいの回復を図る。

・アーケード内の道路空間を利用した情報発信事業(魚町一丁目商店街振興組合、魚町商店街振興組合)

事業完了時期	【実施中】平成20年度～
事業概要	アーケード内の情報発信と広告事業
事業効果又は進捗状況	平成22年4月にデジタルサイネージ(電子看板)を整備し、商店街や街の様々な情報を発信することで、商店街の活性化を図る。

・旦過第一地区市街地再開発事業(旦過第一地区市街地再開発組合(予定))

事業完了時期	【未】平成25年度
事業概要	旦過市場の再整備
事業効果又は進捗状況	古い商店街を再開発し、新たな集客核とする事業。 平成23年度より再開発準備組合など関係機関による協議を開始。平成24年度は、河川事業と一体となったまちづくり計画の策定に向けた勉強会を開催。今後、まちづくり構想を策定し、早期の事業着手を目指す。

・チャチャタウン小倉2期開発事業(西日本鉄道株)

事業完了時期	【未】平成24年度
事業概要	バス営業所、バス駐機場、商業施設、駐車場を備えた複合施設の整備
事業効果又は進捗状況	世界的な不動産不況や高速道路ETC割引等によるバス事業の収益の悪化などにより、事業主体である西日本鉄道株が事業着手時期を慎重に見極めたいとしてスケジュールが遅れているが、引続き事業化に向けて検討中。

・小倉駅北口商業ビル(ラフォーレ跡)再生事業(株アパマンショップホールディングス)

事業完了時期	【済】平成24年度
事業概要	既存のラフォーレビルを活用して小倉駅新幹線口(北口)地区の新たな拠点として再生を図る。
事業効果又は進捗状況	漫画やアニメなどのサブカルチャーを集積した商業施設(名称:あるあるCity)として、平成24年4月にオープン、同年8月には北九州市漫画ミュージアムも開設し、小倉駅新幹線口の歩行者通行量が前年度と比較して約25%増加。

. 北九州市漫画ミュージアム整備事業（北九州市）

事業完了時期	【済】平成24年度
事業概要	漫画文化の拠点整備 約2,300㎡
事業効果又は進捗状況	平成24年8月に開設。施設利用者は目標の年間10万人を達成する見込みであり、あるあるCityとの相乗効果により歩行者通行量の増加に寄与している。

.【追加】（仮称）旧小倉ホテル跡地整備事業（住友不動産株）

事業完了時期	【未】平成24年度
事業概要	医療モール、分譲住宅、商業施設及び交流センターの整備
事業効果又は進捗状況	平成23年2月の解体工事着手を予定していたが、厳しい経済情勢が続いているなどから、事業着手には至っていない。

.【追加】魚町3丁目複合商業施設開発事業（株リアルエステートサービス）

事業完了時期	【済】平成23年度
事業概要	地産地消の生鮮食品を中心とした商業施設及びトイレや駐車場等の利便施設の整備
事業効果又は進捗状況	平成24年3月完成、4月オープン。これまで商店街になかった広大な休憩スペースや誰でも気軽に利用できるおもてなしトイレを整備したことで、周辺商店街における回遊性の向上に寄与。

.【追加】魚町商店街コミュニティスペース建築事業（魚町商店街振興組合）

事業完了時期	【済】平成21年度
事業概要	商店街内の空地を活用して、コミュニティスペースや会議室、トイレなどの利便施設やチャレンジショップ(3階建て125㎡)を整備。
事業効果又は進捗状況	コミュニティスペース等が平成22年3月に完成し、来街者の利便性向上や街の情報発信拠点として賑わい創出に寄与。

.【追加】小倉都心プロモーション事業（WeLove小倉プロジェクト）（WeLove小倉協議会/実行委員会）

事業完了時期	【実施中】平成22年度～
事業概要	市内外に向けたまちの情報発信や、四季折々のイベント等と連携したプロモーションイベントの実施、来訪者へのおもてなし活動、歩行者天国などの新たな魅力づくりなど、地域一体による取り組みを進める。
事業効果又は進捗状況	平成24年3月、東九州の代表的なまちづくり団体が集まり、地域連携策についての検討会「WeLove九州サミット」を開催。平成24年度、小倉の玄関口であるJR小倉駅でデジタルサイネージや大型ビジョンを活用して、まちの情報を発信。

・【追加】「九州新幹線を活用した観光客誘致プロモーション事業」(北九州市)

事業完了時期	【実施中】平成22年度～
事業概要	九州全島及び関西以西をタ・ゲットとした広域からの来街者誘導活動
事業効果又は進捗状況	平成22年度の九州新幹線全線開通に伴い、誘客重点エリアである広島、岡山、熊本、久留米、鹿児島地区において、旅行会社等への積極的なセールス活動やフリーペーパーなどの地元メディアを活用した周知活動を展開するとともに、同エリアの主要駅における観光イベントや交通広告を活用したPRキャンペーンを積極的に行うことで北九州市の多彩な魅力の発信に務め、小倉地区を含めた北九州市への一層の観光客集客に寄与。

・【追加】「快適に回遊できる歩行空間創出事業」(北九州市)

事業完了時期	【実施中】平成25年度
事業概要	雨に濡れずに歩くことができる歩行空間(ペDESTリアンデッキ上のルーフ)の整備、横断歩道橋の撤去
事業効果又は進捗状況	平成22年度に平和歩道橋の撤去を行い、主要交差点のバリアフリー化を図った。また、小倉駅からの来街者が雨に濡れることなく商店街や大規模商業施設に向かうことができるよう、小倉駅小倉城口のペDESTリアンデッキ上に太陽光ルーフを整備し、平成24年9月に一部区間を除き供用を開始した。

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

昨今の厳しい経済状況から、スケジュールが遅れている事業があるものの、平成22年12月の「小倉記念病院新築移転事業」に加え、平成24年4月の「小倉駅北口商業ビル(ラフォーレ跡)再生事業」、同年8月の「北九州市漫画ミュージアム整備事業」など、多くの集客施設が開設した効果により、小倉駅新幹線口(北口)の歩行者が大幅に増加している。また、小倉駅小倉城口(南口)においても、同年4月に「魚町三丁目複合商業施設新築事業」がオープンし、新たな賑わいの拠点的形成されたことに加え、同年9月には小倉城口のペDESTリアンデッキ上に整備を進めてきた太陽光ルーフが一部区間を除いて供用を開始し、雨に濡れない快適な歩行空間の創出を図ったことなどから、昨年度に引き続き増加している。

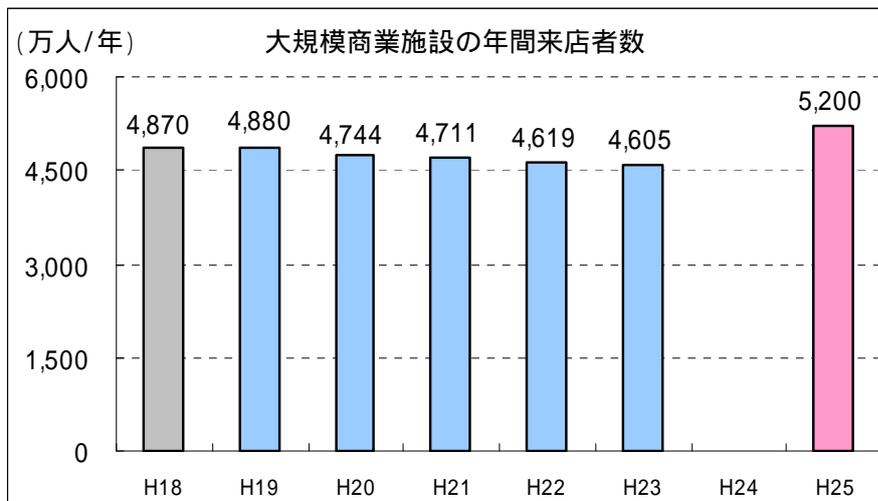
しかしながら、平成24年度内に開設した施設のうち、「小倉駅北口商業ビル(ラフォーレ跡)再生事業」については、年間200万人を超える来場者があり、小倉駅新幹線口(北口)の歩行者通行量の増加に大幅に寄与したものの、当初想定していた年間250万人には届いていないことや、平成25年度に完成する新たな集客施設がないことなどから、このままでは目標達成可能とは見込まれない。

このため、今後はこれまでに完成した都市基盤施設を活用し、新たな集客施設や既存の大規模商業施設、地元商店街との相互の連携を図り、小倉駅南北の回遊性を高める取り組みを進める取り組みを行い、目標達成に向けて地域が一体となって取り組む。

・目標毎のフォローアップ結果「広域商業拠点の賑わいの向上」

「既存の主要大規模商業施設の年間来店者数」 目標設定の考え方基本計画 P70、P80 参照

1. 調査結果の推移



年	(人/年)
H18	48,695,683 (基準年値)
H19	48,798,514
H20	47,443,153
H21	47,105,365
H22	46,191,876
H23	46,052,870
H24	
H25	52,000,000 (目標値)

調査方法；主要大規模商業施設からの報告による実績値合計

調査月；毎年度（通年）

調査主体；北九州市

調査対象；小倉都心地区内の主要大規模商業施設（井筒屋、リバーウォーク北九州、チャチャタウン小倉、セントシティ北九州、アミュプラザ）における来店者数

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

- ・小倉記念病院新築移転事業（（財）平成紫川会）【再掲 P. 4 参照】
- ・魚町銀天街ショッピングモール化事業（魚町一丁目商店街振興組合、魚町商店街振興組合）【再掲 P. 4 参照】
- ・小倉地区賑わい回復イベント事業（小倉中央商業連合会）【再掲 P. 4 参照】
- ・小倉都心賑わいづくり推進事業（紫川、勝山公園の魅力を生かした四季折々のイベント）（北九州市/実行委員会）【再掲 P. 5 参照】
- ・井筒屋リニューアル事業（株井筒屋）

事業完了時期	【済】平成21年度
事業概要	井筒屋の店舗のリニューアル事業
事業効果又は進捗状況	井筒屋本店やコレットの改装を順次行っており、コレットに平成21年3月にはロフト、無印良品、6月には福岡デザインコレクションがテナントとして入居するなど都心部の魅力づくりに貢献している。

- ・チャチャタウン小倉2期開発事業（西日本鉄道株）【再掲 P. 5 参照】
- ・小倉駅北口商業ビル（ラフォーレ跡）再生事業（株アパマンショップホールディングス）【再掲 P. 5 参照】
- ・北九州市漫画ミュージアム整備事業（北九州市）【再掲 P. 6 参照】
- ・【追加】（仮称）旧小倉ホテル跡地整備事業（住友不動産株）【再掲 P. 6 参照】
- ・【追加】魚町3丁目複合商業施設開発事業（株リアルエステートサービス）【再掲 P. 6 参照】
- ・【追加】小倉都心プロモーション事業（WeLove小倉プロジェクト）（WeLove小倉協議会/実行委員会）【再掲 P. 6 参照】

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

当該指標に特に影響が大きい拠点開発等の事業が進んでいないことなどから、昨年度に引続き減少している。

当初、基本計画期間内に完成予定であった主要事業のうち、「チャチャタウン小倉2期開発事業」は、経済情勢の悪化により、平成21年9月に事業主体である西日本鉄道㈱より事業延期の発表があり、現在までに事業再開の目途は立っていない。また、「旦過第一地区市街地再開発事業」は、地権者の合意形成が難航していたエリアにおいて、市の河川事業と一体的に進めることで早期事業着手できるように、平成23年度末より関係機関における協議を開始した。平成24年10月からは地元住民を加えた勉強会を発足、これまで計9回開催し、再開発事業の基礎となるまちづくり構想の素案を作成するなど、官民一体となった事業推進を図っているものの、これら数値目標の達成に資する主要事業の計画期間内の完了は実質不可能な状態になっており、このままでは目標達成可能とは見込めない。

しかしながら、平成24年度の来店者数については、前年度までと比較すると減少率が改善しており、増加には至っていないものの、横ばい傾向に転換してきている。

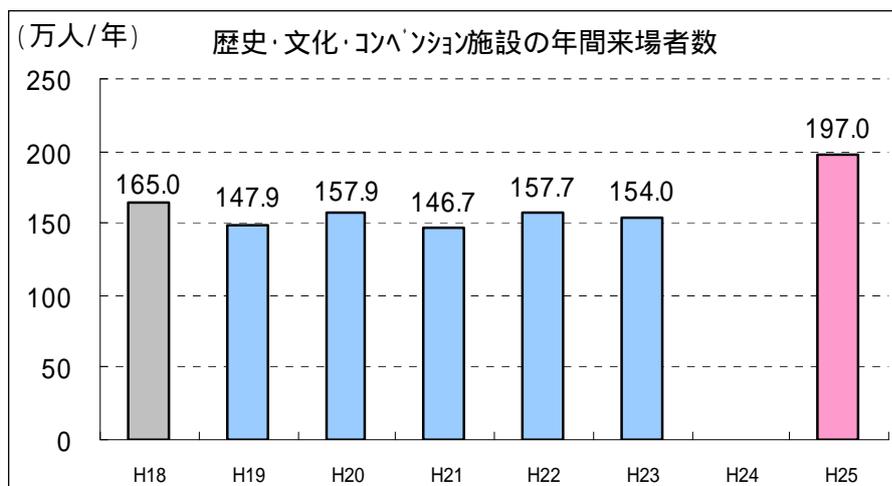
これは、小倉駅新幹線口における新たな集客施設(小倉記念病院新築移転事業、小倉駅北口商業ビル(ラフォーレ跡)再生事業、北九州市漫画ミュージアム整備事業)のオープンに加え、小倉駅小倉城口においても、「魚町3丁目複合商業施設開発事業」や「にぎわいの駅・小倉屋台村事業」、「中心市街地都市型ビジネス振興事業」を活用したりノベーション施設の整備などにより、駅南北に集客拠点が整い、歩行者の回遊性が高まってきているためと考えている。

このため、今後はこれらの新たな集客施設や既存の大規模商業施設、地元商店街との相互の連携を図り、これまで継続的に実施してきた地域一体となったイベントでの来訪者を効果的に回遊させる取り組みを行い、大規模商業施設の集客に繋げることなどにより、目標達成に向けて地域が一体となって取り組む。

・目標毎のフォローアップ結果「文化的で非日常的な都心の魅力向上」

「主要な歴史・文化・コンベンション施設の年間来場者数」 目標設定の考え方基本計画 P70、P89 参照

1. 調査結果の推移



年	(万人/年)
H18	165.0 (基準年値)
H19	147.9
H20	157.9
H21	146.7
H22	157.7
H23	154.0
H24	
H25	197.0 (目標値)

調査方法；各施設からの報告による実績値合計

調査月；毎年度（通年）

調査主体；北九州市

調査対象；小倉都市地区内の主要な歴史・文化・コンベンション施設（小倉城、小倉庭園、松本清張記念館、水環境館、北九州芸術劇場、北九州市立美術館分館、北九州市立文学館、アルモニーサンク北九州ソレイユホール、北九州国際会議場、西日本総合展示場新館・本館）の来場者数

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

・松本清張記念館普及事業（北九州市）

事業完了時期	【実施中】平成20年度～
事業概要	企画展及び講習会等の開催
事業効果又は進捗状況	平成24年度は前年度に引き続き、講演会や企画展、NHKドラマ上映会を開催した。今後も引き続き企画展や講演会等を実施する。

・北九州市立美術館分館企画展示事業（北九州市）

事業完了時期	【実施中】平成20年度～
事業概要	絵画をはじめ、絵本展、工芸展、ポスター展など幅広いジャンルの展覧会を開催。
事業効果又は進捗状況	平成24年度は、「次世代への伝言平山郁夫展」や「画家岸田劉生の軌跡」などを開催した。今後も引き続き、多彩な展覧会を実施する。

・北九州市漫画ミュージアム整備事業（北九州市）【再掲 P. 6 参照】

・浅野町線（シンボルロード）整備（北九州市）

事業完了時期	【済】平成23年度
事業概要	都市計画道路浅野町線において、周回道路に囲まれた中央広場を多目的に活用できる広場へと整備する。
事業効果又は進捗状況	平成23年8月竣工。市民の憩いの広場として小倉駅新幹線口に整備。平成24年10月には、同会場にて「B - 1グランプリ in 北九州」を開催。

・(仮称)小倉駅北口西駐車場の整備(財)平成紫川会)

事業完了時期	【済】平成22年度
事業概要	駐車場の整備 約 15,200 m ²
事業効果又は進捗状況	来街環境の向上策の一つとして、街なかに不足する駐車場を確保するもので、平成21年12月着工、平成22年12月供用開始。

・小倉都心サイン整備(北九州市)

事業完了時期	【済】平成22年度
事業概要	小倉都心部内の文化・コンベンション施設等への円滑な誘導、わかりやすい地域情報の提供を目的に歩行者用サインを整備する。
事業効果又は進捗状況	平成22年3月に完成し、都心部の回遊性および周辺施設への来場者増加に寄与。

・【追加】九州厚生年金会館リニューアル事業(アルモニーサンク改修事業)(北九州市)

事業完了時期	【実施中】平成25年度
事業概要	平成22年10月完成。ホール機能の存続が危ぶまれていたが、市民要望を受けて、市が直接購入し、リニューアルすることで、大規模ホールの機能が存続維持できた。ホールの愛称は公募で「北九州ソレイユホール」に決定。平成25年度には施設利用者の利便性向上を図るため、ホール2-3階にエレベーターを整備する。
事業効果又は進捗状況	平成22年10月にリニューアルオープンし、コンサートや終日開放イベントなどのリニューアルオープン記念イベントを実施することで都心部の回遊性および周辺施設への来場者増加に寄与。

・【追加】小倉都心プロモーション事業(WeLove小倉プロジェクト)(WeLove小倉協議会/実行委員会)

【再掲P. 6参照】

・【追加】九州新幹線を活用した観光客誘致プロモーション事業(北九州市)【再掲P. 7参照】

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

平成22年10月にリニューアルオープンを果たした「九州厚生年金会館リニューアルオープン事業」の効果はあったものの、依然として厳しい経済状況により、大規模コンベンション施設を利用した展示会等の開催数が伸び悩んでいることや、文化施設における企画展等の来場者数が想定より下回ったことから、全体としては僅かながら減少しており、このままでは目標達成可能とは見込めない。

しかしながら、平成24年8月には「北九州市漫画ミュージアム」を開設し、概ね当初想定通りの来場があつていることや、10月に「B-1グランプリ in 北九州」を初めとする複数の大規模コンベンションを開催するなど、目標達成に向けた取り組みを積極的に進めてきた。

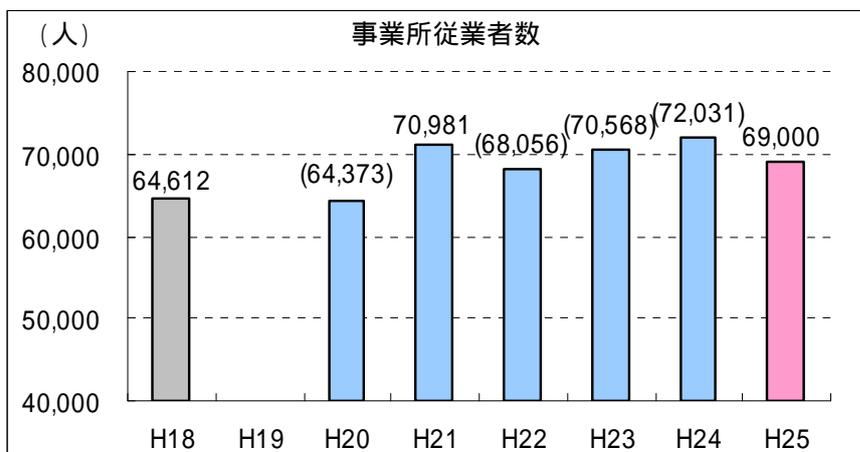
また、平成25年度には本市の市制50周年に関連した様々なコンベンションやイベントを予定していることから、今後、増加が見込まれる。

今後とも、歴史・文化施設の集客力強化に資する取り組みを継続して実施するとともに、「コンベンション振興事業」等による誘致活動を精力的に行い、目標達成に向けて全力で取り組んでいく。

・目標毎のフォローアップ結果「昼間人口の拡大による活力向上」

「事業所従業者数(民間)」 目標設定の考え方基本計画 P70、P93 参照

1. 調査結果の推移



年	(人)
H18	64,612 (基準年値)
H20	(64,373)
H21	70,981
H22	(68,056)
H23	(70,568)
H24	(72,031)
H25	69,000 (目標値)

調査方法；H20 は事業所・企業統計調査による独自推計

H21 は経済センサス調査による実測値

H22～H24 は経済センサス調査と業務ビル空室率調査を併せた独自推計

H21 経済センサスと H18 事業所・企業統計調査では、調査手法が異なる

調査月；毎年 7 月

調査主体；北九州市

調査対象；中心市街地内の民間事業所従業者

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

・小倉記念病院新築移転事業（(財)平成紫川会）【再掲 P. 4 参照】

・チャチャタウン小倉 2 期開発事業（西日本鉄道株）【再掲 P. 5 参照】

・小倉駅南口東地区市街地再開発事業（小倉駅南口東地区市街地再開発組合（予定））

事業完了時期	【未】平成27年度
事業概要	業務施設、商業施設、公益施設及び駐車場を備えた民間再開発ビルの整備。
事業効果又は進捗状況	保留床の処分について、デベロッパーを中心とする関係者が現在調整中。業務・商業・公益施設等の導入による新規雇用が期待される。

・【追加】(仮称)浅野複合老健施設新築事業（社会福祉法人風花会）

事業完了時期	【済】平成24年度
事業概要	デイサービス・有料老人ホーム・賃貸住宅・交流センター及び立体駐車場の整備。
事業効果又は進捗状況	平成25年3月完成。デイサービスや老人ホーム、賃貸住宅を備えた複合施設であり、昼間・夜間人口の増加に寄与。

・(仮称)旧小倉ホテル跡地整備事業（住友不動産株）

【再掲 P. 6 参照】

・魚町 3 丁目複合商業施設開発事業（株）リアルエステートサービス）

【再掲 P. 6 参照】

・西小倉駅前第一地区市街地再開発事業

事業完了時期	【済】平成22年度
事業概要	住宅、商業施設及び駐車場を備えた市街地再開発事業
事業効果又は進捗状況	平成23年2月に完成。住宅195戸。昼間人口の拡大による活力向上に寄与。

・【追加】街なかオフィス立地促進事業

事業完了時期	【実施中】H22年度～
事業概要	オフィス需要が低迷する都心部において、特にエリア外から移転・増設する都市型オフィス系事務所等に対して、移転経費の一部を支援するインセンティブにより、都市型業務の進出を促進する。平成23年度からは、中活エリア内に限り補助金の助成期間を延長するなど、都市型オフィスの進出を更に促進する。
事業効果又は進捗状況	平成22年10月、携帯電話会社のお客様相談センター（雇用250人）が新設された。

・【追加】（仮称）TANGAコンプレックス新築事業

事業完了時期	【済】平成24年度
事業概要	高齢者施設、テナント、賃貸マンション、イベントホールを備えた民間ビルの整備
事業効果又は進捗状況	平成22年度工事着手、平成24年4月完成。昼間人口の拡大による活力向上に寄与。

・【追加】中心市街地都市型ビジネス振興事業

事業完了時期	【実施中】平成22年度～
事業概要	多様な都市型ビジネスの集積を図るため、コンサルティングを開催。また、実際の空きビル・空き店舗を題材にしたリノベーションスクールを開催し、事業化に結びつける。
事業効果又は進捗状況	平成24年度までに7件の空きビル・空き店舗についてリノベーション手法による改修が行われ、昼間人口の増加に寄与。

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

本指標の主要事業である「小倉駅南口東地区市街地再開発事業」は、当初、平成23年度の事業完了を予定していたが、平成21年5月に事務所フロアを買い取る予定であった会社が事業参加の確認書を解約したことから、事業の見込みが立たなくなった。現在、再開発準備組合により、用途変更を視野に入れた事業計画の見直しについての検討が進められており、平成27年度の施設完成を目指して準備が進められている。本事業により、1,600人を超える従業者数の増加を見込むなど、当該指標の目標達成のための最も大きな事業として考えていたが、現時点で計画期間内の事業効果の発現は見込めない状況となっている。

このため、当地区では主要事業の遅滞による数値増加が見込めない部分を補うため、これまでも、事業所従業者数の増加に資する多くの事業を追加してきており、具体的には、平成21年度に「（仮称）浅野複合老健施設新築事業」や「魚町3丁目複合商業施設開発事業」、平成22年度には「九州厚生年金会館リニューアルオープン事業」、「中心市街地都市型ビジネス振興事業」、「（仮

称)TANGA コンプレックス新築事業」、「街なかオフィス立地促進事業」を追加した。

このうち、施設整備にかかる4事業は全て平成24年度までに開設し、起業・就業支援にかかる2事業も実施中であり、全事業において効果が発現しており、これらの事業と併せ、当初の見込みより実績が大幅に増加した事業があったことや、基本計画と直接関連はないものの事務所の立地等による増加があったことにより、全体では4,200人以上の雇用実績が上がっており、当初の増加見込みとほぼ同規模の増加が起きている。

一方、H21 経済センサスによる統計値では、本地区の従業者数は70,981人となっており、これを基準として算出したH24推計値では、72,031人となっている。

これは、基本計画により実施した個別事業等により、地域活力が向上し、周辺の民間企業における雇用が促進されたことによる波及効果であると考えている。

このことから、基本計画当初に盛り込んだ主要事業が遅滞しているものの、今後も、引続き官民一体となった取組を継続することで、目標数値の達成は可能と考えている。

なお、現在までに効果が発現していない個別事業については、今後とも早期の事業着手を民間事業者に働きかけていく。